

教育研究業績書

2022年05月09日

所属： 幼児教育学科

資格： 教授

氏名： 塚田 みちる

研究分野	研究内容のキーワード
保育・発達心理学	発達心理学, 母子関係の発達, 自己の発達, 乳幼児期, 子育て支援の実践研究
学位	最終学歴
博士 (心理学)	東京都立大学大学院人文科学研究科心理学専攻博士課程

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 少人数のゼミ活動での工夫	2012年4月1日～現在	多様な社会的活動への参加を通して、教育・保育学生の今だからこそこできる子育て支援活動について学生の共働的活動を実現し、社会に貢献する実感を育てる工夫をしている。
2. 「保育の心理学」等の講義における工夫	2012年4月1日～現在	心理学の知見が実際の保育現場での実践に役立つように、知識と実践のつながりを実感できる教材を作成している。例えば子どもの写真や映像など視聴覚教材の使用、保育現場で生じる多様な事例の紹介、グループワークやプロジェクト活動などである。
2 作成した教科書、教材		
1. エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学－関係のなかでそだつ子どもたち	2004年7月5日	発達心理学の基礎的な知見を筆者らの体験したエピソードをもとにして分かりやすく解説した心理学の初学者向けの新しいスタイルの入門書である。
2. エピソードで学ぶ赤ちゃんの発達と子育て－いのちのリレーの心理学	2010年12月1日	胎児期から生後1年半までの赤ちゃんの発達を学び、親となることについてのイメージと必要な知識が得られる画期的な乳児心理学入門書である。
3. エピソードで学ぶ保育のための心理学－子ども理解のまなざし	2019年12月1日	乳児期から小学校就学前までの子どもの育ちについて、保育者養成校などで学ぶ学生の方や、保育の心理学に関心のある方などを対象にしたテキストである。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 乳幼児の保護者向け子育て相談の実施	2012年4月～現在	神戸市内の保育園にて「子育てサロン」を実施し、臨床発達心理士として園児の保護者、保育園近隣在住の保護者の子育て相談を受けている。
2. ママさん先生プロジェクトの実施	2016年4月2021年3月	就学前の子育て家庭を保育者を目指す学生が訪問して、母親の育児の助けをしたり、家庭での子育ての実際を体験する次世代育成のための活動を展開している。
3. 食物アレルギー児への親子クッキング講習会の開催	2018年4月～現在	医師、看護師、管理栄養士と大学関係者と共同で「神戸小児アレルギークッキング研究会」を主催し、年に数回、親子クッキング講習会を企画運営している。
4. 赤ちゃん先生プロジェクトへの参加	2019年4月～現在	NP0法人ママの働き方応援隊の実施する赤ちゃん先生プロジェクトへの参加を通して、保育者を目指す学生の母親への理解、子どもへの理解、自分の将来のキャリアプランなどについて学ぶ場を作っている。
5. 「にこにこママさんサークルの立ち上げ事業－保育学生－子ども－母親」の交流を通じた育ち合い支援事業	2019年4月2021年3月	神戸市社会福祉協議会より「生駒温子」児童福祉事業助成を受けて、港島地区の子育て中の親同士の交流を促進する事業を実施した。
4 その他		
1. 家庭裁判所調査官向けの定期講習会の実施	2008年2月2011年2月	テーマ「子どもならびに親子関係の観察法の実践」について研修会を行った。

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 臨床発達心理士	2012年4月1日～現在	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項				
事項		年月日		概要
4 その他				
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学－関係の中でそだつ子どもたち	共	2004年7月	新曜社	発達心理学の基礎的な知見を筆者らの体験したエピソードをもとにして分かりやすく解説した心理学の初学者向けの新しいスタイルの入門書である。
2. 乳幼児の自己調整の発達過程と親子関係の歴史－親の「こうしないで欲しい」を子どもが聞き入れるようになる過程－	単	2009年1月	風間書房	本著は学位論文を出版したものである。内容は著者が乳幼児期の親子の関わりを観察することを通して出会った印象深い出来事を自己調整の発達という学問的関心に沿って解明したものである。
3. エピソードで学ぶ赤ちゃんの発達と子育て－いのちのリレーの心理学	共	2010年12月1日	新曜社	胎児期から生後1年半までの赤ちゃんの発達を学び、親となることについてのイメージと必要な知識が得られる画期的な乳児心理学入門書である。
4. エピソードで学ぶ保育のための心理学－子ども理解のまなざし	共	2019年12月1日	新曜社	乳児期から小学校就学前までの子どもの育ちについて、保育者養成校などで学ぶ学生の方や、保育の心理学に関心のある方などを対象にしたテキストである。
5. 接面を生きる人間学－「共に生きる」とはどういうことか	共	2021年5月	ミネルヴァ書房	関係発達論を基礎にした実践的研究として、保育者養成校の教員である筆者と教え子とのやり取りから「保育者になる」という前向きな気持ちが立ち上がる様相を、一連のエピソードに綴ったものである。
2 学位論文				
1. 乳幼児の自己調整の発達過程と親子関係の歴史－親の「こうしないで欲しい」を子どもが聞き入れるようになる過程－	単	2008年3月	中京大学大学院	著者が乳幼児期の親子の関わりを観察することを通して出会った印象深い出来事を自己調整の発達という学問的関心に沿って解明するとともに、その出来事の意味を間身体的、間主観的に把握することによって、親子それぞれの思いを深く理解しようと試みたものである。
3 学術論文				
1. コミュニケーションの変化と子どもの自己の発達Ⅰ：生後8ヶ月から1年までの断続的研究（査読付）	共	2000年3月	東京都立大学心理学研究 第10巻 p. 17-24	母子の物事を介したやり取りの変化を銃弾的観察データから検討し、子どもの自己の発生との関連性の観点から考察した。
2. コミュニケーションの変化と子どもの自己の発達Ⅱ：近年の2つの自己発達研究をめぐって（査読付）	共	2000年3月	東京都立大学心理学研究 第10巻 p. 24-34	母子コミュニケーションと子どもの自己の発達との関連性について、とりわけワロンの理論をもとに考察を試みた。
3. 養育者との相互交渉に見られる乳児の応答性の発達の变化：二項から三項への移行プロセスに着目して（査読付）	単	2001年4月	発達心理学研究 第12巻（1）p. 1-11	生後9ヶ月は「9ヶ月ミラクル」と称されるように、子どもの世界の認識の仕方がそれ以前とは劇的に異なる時期といわれている。本論はその生後9ヶ月の変化に着目し親子間での対面的なやり取り（二項の関係）から物事を介した三項の関係へ移行する過程について行動的な変化を検討した。
4. 就学前児における親子理解の検討－「生みの親」と「育ての親」をどう理解しているか（査読付）	共	2003年10月	子ども家庭福祉学 第3巻p. 1-10	本論は非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つである。非血縁家族に調査を行うに先立って、対象群である血縁家族の子どもに実験的場面を設けて調査を行った。
5. 非血縁家族における	共	2004年3月	中京大学心理学	非血縁家族における家族関係に関わる共同研究において、育て親の

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
若年養子へのテリングー育ての親はどのように試みているか？ー（査読付）	共	2004年3月	科・心理学部紀要 第3巻（1）p.1-6	テリング（育て親とは別に生みの親がいることを子どもに伝え続けること）の内容について、対象者にアンケート調査を行った。
6.0-1歳児における「不従順さ」ー食事場面における母子間コンフリクトの展開ー（査読付）	共	2004年3月	東京都立大学心理学研究 第14巻 p.27-38	乳幼児期の母子間コミュニケーションに関わる共同研究において、子どものいわゆる「反抗期」に着目した。親の禁止に対して不従順を示すことで自己主張をする。この不従順（反抗・抵抗）行為の内容について検討した。
7.からかいコミュニケーション現象を通してみる乳幼児期のコミュニケーションの質的变化（査読付）	共	2004年3月	東京都立大学心理学研究 第14巻 p.1-8	本論は乳幼児期の母子コミュニケーションに関わる共同研究においてコミュニケーションの質的变化を、子どものこうした「わざと悪いことをする行動」や「からかい行動」に着目して理論的考察を試みた。
8.育ての親が生みの親の存在を子どもに伝え続けることーOpen Adoption におけるテリングをめぐる発達支援ー（査読付）	共	2004年3月	中京大学心理学科・心理学部紀要 第3巻（1）p.132-141	非血縁家族における家族関係に関わる共同研究において、育ての親のテリングについて事例検討を行った。
9.乳幼児期における自己主張性の発達と母親の対処行動の変容：食事場面における生後5-15ヶ月までの縦断研究（査読付）	共	2005年4月	発達心理学研究 第16巻（1）p.46-58	乳幼児期の母子コミュニケーションに関わる共同研究において、食事場面における母子相互交渉の変化と子どもの自己主張行動の発生と関連性について検討した。
10.心理学部における発達心理学教育の歩みー講義者の試みを受講生はどう受け止めたかー（査読付）	共	2006年3月	中京大学心理学科・心理学部紀要 第5巻（2）p.1-21	心理学部における学部1年生を対象とした「発達心理学概論」という講義内容の平成13年から平成17年までの変遷を概略した。
11.非血縁家族において子どもが作る自分史への発達支援ー育て親によるテリングに関する探索的検討ー（査読付）	共	2006年3月	中京大学心理学科・心理学部紀要 第5巻（2）p.23-33	非血縁家族における家族関係に関わる共同研究において、育ての親のテリングと子どもの自分史形成との関連性について理論的考察を試みた。
12.12ヶ月時から24ヶ月時における子どもの行為制御の発達：親子間の事物をめぐる葛藤の変化に注目して（査読付）	単	2008年12月	発達心理学研究 第19巻（4）p.331-341	1歳代の子どもの行為制御（＝自己調整）の発生と成り立ちを親子間での親の禁止と子どもの自己主張による葛藤的関わりの変化との関連で検討した。
13.家庭参入型の親子とのふれあい体験が大学生の親準備性にもたらす効果（査読付）	共	2013年7月	臨床発達心理実践研究 第8巻 p.73-79	近年、若者の「親準備性」の低下という問題を受けて、本研究では、小さい子どもを子育て中の家庭に協力を呼びかけ、学生が家庭を訪問して日常生活を少しの時間ともして、子育ての手伝いをするというプログラムを用意した。それに参加する前後での学生の「子ども」への意識調査を行った。
14.実習における＜子ども-実習生との関係＞の検討ー保育実習・教育実習での体験をエピソード記述で描くー（査読付）	単	2014年3月	神戸女子短期大学「論攻」第59巻 p.1-16	本研究は、保育者を目指す学生が、実習中に、子どもとどのように関係を形成するかを検討したものである。幼児教育学科の学生の協力を得て、初めての実習である「保育実習」と、続く「教育実習」の終了後に行ったエピソード記述を分析対象にした。
15.乳児の情動の調整における＜調整する-される＞という関係	単	2015年3月	神戸女子短期大学「論攻」第60巻 p.17-31	本研究では、子どもの情動の調整を＜調整する-される＞という関係のありようとして検討した。出産前後に里帰りをして第一子を子育て中の母親と乳児、祖母を対象に、三者の日常生活の場に筆者が

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
の検討 一生後半 間における三世代 の関わりをめぐって－ (査読付)				出向いて関与観察を行い、そこでの体験をもとにしたエピソード記述を分析対象にした。
16. 子育て支援に向けて の保育者養成校と保 育園の連携－「きず なDAY」の事例より (査読付)	共	2016年3月	神戸女子短期大学 「論叢」第61巻 p.1-9	神戸女子短期大学幼児教育学科では、きずなDAYという学科企画行事を2012年度から神戸女子短期大学付属の保育園との合同行事として行っている。筆者はその大学側の主催者として企画・運営に関わっており、その中で学生制作作品の紹介のコーナーも担当している。その紹介文を掲載した。
17. 障がい特性のある子 どもへの理解を深め るための授業研究-科 目「教育相談の理 論・方法」での絵本 を使った模擬保育を 通して－	単	2017年3月	神戸女子短期大学 教職課程研究 第 1巻 p2-13	科目「教育相談の理論・方法（カウンセリングを含む）」において、教育現場での相談場面で、クライアント（相談する側）の思いに寄り添った対応ができる自分をイメージできるための教材研究を取り上げた。
18. 多世代交流による育 て合いの実践として の子育てサポート活 動の紹介と縦断的な 効果の検討（査読 付）	共	2017年3月	中京大学心理学研 究科・心理学部紀 要 第17巻（1） p.35-46	学部生と地域の多世代交流の実践に参加し、参加者へのアンケート調査、活動中の行動観察などの資料収集を行った。
19. 小豆島らしい子育て 環境についての調査 報告－「島出身の母 親」と「嫁いできた 母親」の語りの比較 から（査読付）	単	2017年3月	神戸女子短期大学 「論叢」第62巻 p.65-77	本調査は「小豆島らしい子育て」の環境を捉えるべく、現在小豆島で子育て中の母親を対象に子育てのメリット・デメリット、それへの解決策の観点から調査した。
20. 保育者志望学生の 「今できる子育て支 援とは何か」に関す る一考察－家庭訪問 型の子育て支援活動 を通して－（査読 付）	単	2018年3月	神戸女子短期大学 「論叢」第63巻 p.99-110	本資料は保育者志望学生の「今できる子育て支援」という観点から、家庭参入型の子育て支援活動の内容を報告したものである。
21. 子どもたちとの触れ 合いが「教育（保 育）者になる」とい う自覚に与える影響 についての検討－科 目「幼児理解の理 論・方法」での学生 の自己評価を通して －（査読付き）	単	2018年3月	神戸女子短期大学 教職課程研究 第 2巻 p10-17	科目「幼児理解の理論・方法」において、学生の「教育（保育）者になる」という自覚を高めるために「観察実習」を取り入れた。本稿では、その取り組みの前後で教育（保育）者になることへの自覚がどのように変化したかを学生の自己評価から検討した。
22. 保育学生による子育 て支援活動くこに こクラブ>運営の現 状と課題について－ 教職関連科目「学 科特別演習」での親 子遊びのひろばの実 施を通して－（査読 付き）	単	2019年3月	神戸女子短期大学 教職課程研究 第 3巻 p24-33	科目「学科特別演習Ⅰ・Ⅱ」において、地域の親子を対象にした遊びのひろば「くこにこクラブ」の企画・運営したほぼ10年間の経緯についてまとめたものである。
23. 子育て相談における 支援者と母親の情動 を媒介にした関係の 形成 ー〈支援する ーされる〉という関 係を「接面」という概	単	2019年12月	臨床発達心理実践 研究 第14巻 p. 163～170	本研究は某保育園内の遊戯室開放にて実施される子育て相談を、〈支援するーされる〉という関係に着目して取り上げたものである。母親-子ども-支援者（筆者）のあいだに生じた情動の動きをエピソードに記述した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
念で読み解く（査読付）				
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 乳児期における対人表象の形成	単	1998年3月	日本感情心理学会第6回大会	生後半年から1歳に至る過程において、子どもと母親の関わりの変化を行動分析、および情緒的評定を用いて分析した。
2. 養育者とのコミュニケーションにみられる乳児の行動と情動の体制化	単	1999年3月	日本発達心理学会第10回大会 大阪学院大学	本研究では、やり取りにおける乳児の情動表出の変化に着目して分析した。
3. 思春期の感性と自我発達（1）	共	2000年3月	日本発達心理学会第11回大会 東京女子大学	本研究は「思春期の自我発達」をテーマにした共同研究の一環である。本発表は、中学生の自我発達を彼らの感性を測定することで描き出すことを目的とした。
4. 思春期の感性と自我発達（2）	共	2000年3月	日本発達心理学会第11回大会 東京女子大学	本研究は「思春期の自我発達」をテーマにした共同研究の一環である。本発表は、研究の基本的枠組みを紹介した。
5. 母子の相互随伴とコミュニケーションの変化：月齢8～12か月まで のもののやり取り場面を通して	単	2000年3月	日本発達心理学会第11回大会 東京女子大学	母親と乳児のやり取りの中でも、とりわけ事物を介したやり取りに注目し、生後8カ月から12カ月において、母子のやり取りを分析した。
6. 「応じる」ときと「応じない」とき：他者の「どうぞ」と「ちょうだい」への子どもの選択性の出現	単	2001年3月	日本発達心理学会第12回大会 鳴門教育大学	子どもの自己の発達を、事物をめぐるやり取りにおける「他者に応じる力」と「他者に応じない力」と捉えて、生後半年から2歳までのコミュニケーションを分析した。
7. 三項関係とは何を準備する構造なのか（1）-自己主張の発生メカニズムをめぐって-	共	2002年3月	日本発達心理学会第13回大会 早稲田大学	本研究では＜自己-対象-他者＞の三項関係という新しい社会構造が成立するときに着目した。特に二者間における「役割交替」現象に注目し、それと自己主張との関連を検討した。
8. グレーゾーンの子どものめぐる発達支援（1）	共	2002年3月	日本発達心理学会第13回大会 早稲田大学	本研究は、情動のコントロールがうまくいかない子どもを、障がいにおける「グレーゾーン」と捉えて、親子への発達支援を目的とした研究の一環である。親子には「遊びの会」に参加してもらい、そこでの自由遊びや設定遊びでの対人的やり取りを記録した。
9. 三項関係とは何を準備する構造なのか（2）-受け渡し行為の発達の变化：どうしてお父さんにはくれないの？-	共	2002年3月	日本発達心理学会第13回大会 早稲田大学	本研究では＜自己-対象-他者＞の三項関係という新しい社会構造が成立するときに着目した。特に二者間における「giving行為」の機能的変化に注目した。
10. On the role of role-reversal behavior contributed to self-development in infancy : A naturalistic longitudinal study in Japan	共	2002年7月	Presented paper at 17th biennial meeting of ISSBD	日本の子どもを対象に、乳幼児期における自己主張の発達について日常場面の観察を通して検討した。
11. 乳児期における要求-拒否行動の発達：表出形式の分析から	共	2003年3月	日本心理学会第67回大会 東京大学	乳児期における自己主張の発達を、要求と拒否という側面から検討した。
12. お母さんってどんな人？～育てる母親、生みの母親、子どもの	共	2003年3月	日本発達心理学会第14回大会 兵庫教育大学	本論は、非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つである。血縁関係にある子どもは、子どもが母親から「生まれること」と「育てること」をどのように理解しているかを4、5歳児を

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
登場する物語理解をめぐる～				対象に調査した。
13. グレーゾーンの子どもをめぐる発達支援(2)-支援初期における情動アセスメントの方法の検討-	共	2003年3月	日本発達心理学会第14回大会 兵庫教育大学	本研究は、情動のコントロールがうまくいかない子どもを、障がいにおける「グレーゾーン」と捉えて、親子への発達支援を目的とした研究の一環である。情動表出の問題をアセスメントするために「行動観察」を縦断的に行った。
14. 初期negativismの発達と養育者の対処行動の変容	共	2003年3月	日本発達心理学会第14回大会 兵庫教育大学	乳児期における自己主張の発達を、養育者の対処行動に着目して検討した。
15. 育ての親が生みの親の存在を子どもに伝え続けること-その一研究の構想-	共	2004年3月	日本発達心理学会第15回大会 白百合女子大学	本論は、非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つである。「育ての親への効果」と「子どもへの効果」とに分けて検討していくという構想について述べた。
16. グレーゾーンの子どもをめぐる発達支援(3):活動参加に困難を示した事例への対応	共	2004年3月	日本発達心理学会第15回大会 白百合女子大学	本研究は、情動のコントロールがうまくいかない子どもを、障がいにおける「グレーゾーン」と捉えて、親子への発達支援を目的とした研究の一環である。情動表出の問題をアセスメントするために「行動観察」を縦断的に行った。
17. 就学前期からかコミュニケーションの様相:子どものおやつを親が「ちょうだい」というやり取りをめぐる	共	2004年3月	日本発達心理学会第15回大会 白百合女子大学	子どもの自己主張の形態のうち拒否行動に注目し、3～5歳におけるその形態的变化を検討した。
18. 育ての親が生みの親の存在を子どもに伝え続けること-その三 子どもの自己像・親理解とテリング-	共	2004年3月	日本発達心理学会第15回大会 白百合女子大学	本論は、非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つである。テリングを継続的に行うことによって、子どもの自己像と親理解がどのように変化するかを検討した。
19. 育ての親が生みの親の存在を子どもに伝え続けること-その二 育ての親によるテリング-	共	2004年3月	日本発達心理学会第15回大会 白百合女子大学	本論は、非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つである。「テリング」の内実に迫るため、育ての親がどのような点に考慮して行っているのかを検討した。
20. Telling the adopted children in nonbiological families about their origins: How are the adoptive parents trying to do this?	共	2004年7月	Presented paper at 18th biennial meeting of ISSBD	本論は、非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つである。本発表は19で挙げた内容を海外で発表したものである。
21. 家族における育て親の態度-子ども・子育て観と夫婦関係-	共	2004年9月	日本心理学会第68回大会 関西大学	本論は、非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つである。育て親の子育て観や夫婦関係や結婚についての認知の様態を、実子を育てている群と比較検討した。
22. 就学前児における親との葛藤解決プロセスの発達-余ったケーキは誰のもの? お父さん? お母さん? それとも自分?	共	2006年3月	日本発達心理学会第15回大会 白百合女子大学	本研究では、就学前児の子どもが家庭において母親との葛藤を解決するときどのようなプロセスをたどるのかを取り上げた。
23. 育て親が生みの親の存在を子どもへ伝え続けること-テリングをめぐる発達支援-	共	2006年3月	日本発達心理学会第15回大会 白百合女子大学	本論は、非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一つとして、育て親が子どもの発達に伴ってどのようにテリングの内容を変化させていくのかを検討した。
24. A Developmental	共	2008年7月	Presented paper	本論は、非血縁家族における家族関係に関わる共同研究の成果の一

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
Study on "Telling" in the Open Adoptive Families.			at 19th biennial meeting of ISSBD, Melbourne, Australia.	つである。本発表は22で挙げた内容を海外で発表したものである。
25. 祖母－母親－子どものあいだの世代間伝達「かつての子ども」が呼び起されるという経験を通して。	共	2009年3月	日本発達心理学会第20回大会 日本女子大学	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、本研究では「親になること」の過程における世代間伝達の問題を取り上げた。
26. 子育て家庭での継続的支援の経験が大学生の子育て観に及ぼす影響	共	2010年3月	日本発達心理学会第21回大会 関西エリア連合：奈良女子大学	近年、青年における「親準備性」の低さが懸念されている。本研究では大学生に子育て中の家庭に継続的に訪問をして、日常のさまざまな育児行動を支援するプログラムを実施した。
27. 乳幼児期のエフォートフル・コントロールと行動的抑制傾向	共	2010年3月	日本発達心理学会第21回大会 関西エリア連合：奈良女子大学	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、乳幼児期の自己制御の発達過程においてエフォートフルコントロールの能力の向上と行動的抑制の気質的傾向との関連を調べた。
28. 乳幼児期の自己制御行動にかかる気質測定のためのテストバッテリー開発-行動抑制傾向とエフォートフル・コントロールについて-	共	2010年3月	第10回日本赤ちゃん学会 東京大学本郷キャンパス	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、気質測定のためのテストバッテリーについて検討した。
29. Japanese children self-regulation in peer relationship : Developmental perspective from preschool years to adolescence	共	2011年4月	Society for Research in Child Development Palais des congrès de Montréal・Canada	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、日本における就学前の幼児から青年期への発達の变化について展望を発表した。
30. 乳幼児期の自己制御行動にかかる気質測定のためのテストバッテリー開発	共	2011年5月	日本赤ちゃん学会第11回大会 中部学院大学各務原キャンパス	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、乳幼児期の自己制御行動を調査した。
31. おもちゃの片付け場面における子どもの行動パターン	共	2012年3月	日本発達心理学会第23回大会 名古屋国際会議場	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として子どもの行動に着目して検討した。
32. 新米母親の寝かしつけ行為にみる親の抱く大人性と子ども性-里帰り中の母子と祖母の関係から-	共	2012年3月	日本発達心理学会第23回大会 名古屋国際会議場	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、初めて子どもを出産して育児を始める母親が母親らしい心境に変化していくプロセスについて検討した。
33. 乳児の気質：行動観察データと母親の認識との比較：実験的観察法と質問紙測定による行動的抑制傾向とエフォートフル・コントロール	共	2012年9月	第77回日本心理学会 札幌市産業振興センター	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、研究手法に着目して議論した。
34. Prevention of injury to infants by Japanese mothers : From the perspective of socialization	共	2013年3月	121th American Psychological Association (APA) Annual Convention,	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、日本における就学前の幼児から青年期への発達の变化について展望を発表した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
35. 新米ママによる寝かしつけ行為の生後1年間の変化～「育てる者」から「育てられるもの」へ	共	2013年5月	第66回日本保育学会 中村学園大学・中村学園大学短期大学部	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の一貫として、第一子出産・子育てを始めたある母親の調査結果である。
36. 母親の玩具選択に見る養育態度と子どもの気質との関連	共	2013年9月	第78回日本心理学会 札幌コンベンションセンター	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の成果の一部である。
37. 乳児の気質：月齢による母親の認識の違い	共	2013年9月	第78回日本心理学会 札幌コンベンションセンター	科学研究費（研究課題番号：21330156）による共同研究『自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究』の成果の一部として発表した。
38. 子どもと通じ合うという実習体験を描くー初めての保育所実習と教育実習での体験を比較してー	単	2014年5月	日本保育学会第67回大会 大阪：大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学	幼稚園教員免許と保育士の養成校では学生が教育実習と保育所実習を経験するが、それらの経験の違いについて検討した。
39. 子どもと通じ合うこと-実習中の体験をエピソード記述で描く-	単	2015年3月	日本発達心理学会第26回大会 東京：東京大学	幼稚園教員免許と保育士の養成校では学生が教育実習と保育所実習の内容について子どもの年齢ごとに検討した。
40. 保育学生の今だからこそできる子育て支援とは何か-家庭訪問型子育て支援活動「ママさん先生プロジェクト」を通して-	単	2019年3月	日本発達心理学会第30回大会 東京：早稲田大学	保護者の子育て相談に応じる経験から「支援する-される」という関係の成り立ちに興味を抱いている。この疑問にチャレンジするために家庭訪問型の支援活動「ママさん先生プロジェクト」を実施し、その課題について検討した。
41. 医療機関と連携して「親子アレルギー対応クッキング講習会」を開催する受け入れ側（大学）の体制と配慮すべき事項に関する考察	共	2021年5月	第37回日本小児臨床アレルギー学会 同愛記念病院小児アレルギーセンター/和洋女子大学	親子FA対応クッキング講習会を安全かつ円滑に行うために、医療関係者と大学関係者との連携の体制と配慮すべき事項を検討した。
42. 食物アレルギー対応親子クッキングの試み	共	2021年5月	第37回日本小児臨床アレルギー学会 同愛記念病院小児アレルギーセンター/和洋女子大学	食物アレルギーのある子どもが、アレルギー対応の料理をすることで、アレルギー対応食への関心を持つことや、食物アレルギーを持つ子ども同士の交流をはかるという講習会の内容を医療関係者のサイドから検討した。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 読売新聞ほうむたうん 子育てコラム「あっちむいてほい」	共	2000年4月 2013年まで	読売新聞 生活コラム記事	月に一度、生活コラム欄に子どもの育ちの姿や子育てにまつわる様々な悩み事を取り上げ、具体的なエピソードと発達心理学的な簡単な解説を付した。
2. 守口市子育て支援センター講座「さあ今から始めよう、自分らしい子育て」	単	2010年2月	守口市子育て支援センター 子育て活動報告書	就学前の子どもを育てている保護者を対象に、親になるプロセスについての心理発達をテーマに座談会を行った。
3. 守口市子育て支援センター講座「あんなこと、こんなこと、おしゃべりしよう」	単	2010年11月	守口市子育て支援センター 子育て活動報告書	就学前の子どもを育てている保護者を対象に、子育ての悩みをテーマごとに分かれてグループディスカッションを行い、総括した。
4. きずなDAY 報告書	共	2012年4月 2021年まで	神戸女子短期大学 幼児教育学科	神戸女子短期大学幼児教育学科と神女中山手保育園との合同行事についての報告書について第1回から第10回まで報告書の一部を作成した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
5. 楽しく過ごそうおうち時間 生活編 手作りおもちゃ編	共	2020年8月	神戸女子短期大学 幼児教育学科 さくらんぼプロジェクト報告書	2018年度から実施している神女中山手保育園の保護者と神戸女子短期大学幼児教育学科2年生との繋がりがづくりのプロジェクト（さくらんぼプロジェクト）の報告書である。
6. 研究費の取得状況				
1. 非血縁家族における子どもへの真実告知—実親サーチに関する発達心理学的検討	共	2001年4月 2003年3月まで	科学研究費補助金 基盤研究(C)	本研究は、2歳未満の子どもを養子に迎えることによって成立した親子関係において、真実告知が、その後の親子関係や及び子ども自己アイデンティティの形成に肯定的意味をもつという考えを検証しものである。
2. 非血縁親子が育む家族機能と子どもの親理解・自己理解	共	2005年4月 2007年3月まで	科学研究費補助金 基盤研究(C)	育て親が子どもの発達に伴いどのようにテリングを行っていくのか、子どもたちがテリングを通じてどのように自己理解や親子関係理解を深めていくのかを把握し、家族機能が生成されるプロセスについて検討した。
3. 自己制御行動に係る子どもの気質の発達過程：発達初期の生育環境を考慮した縦断研究	共	2009年4月 2014年3月まで	科学研究費補助金 基盤研究(B)	発達初期から観察される2つの気質、エフォートフル・コントロール（注意や情動のコントロールにおける個人差）と行動的抑制傾向（新奇な事物・人物・状況に対して臆するなど行動が抑制する傾向）の個人差に焦点をあて、その発達過程について調査した。
4. 小豆島ならではの食育活動と幼児の「その子らしさ」の育ち	単	2013年4月 2018年3月まで	行吉学園 教育・研究助成費	本調査は子育て環境の1つとして地域の対人的なつながりが比較に敵密接であるといわれる地域に着目して、その地域の1つとして小豆島で子育て中の母親を対象に子育てのメリット・デメリット、それへの解決策の観点から調査した。
5. 保育学生による家庭参入型子育て支援活動の教育効果の研究—保護者対応力に着目して—	単	2018年4月 2021年3月まで	行吉学園 教育・研究助成費	家庭参入型子育て支援活動の教育効果が新任保育士としての2年間に保護者への対応に活かされているかどうかを検討する。本活動の経験がその後の「保護者対応力」にどのようにつながるかを明らかにした。
6. 地域の子育て支援活動における「世代間交流」のあり方に関する調査研究	共	2018年4月 2019年3月まで	行吉学園 全学的な教育の質的転換を図るための先駆的調査・研究	神女幼児教育学科で主催している子育て支援活動、遊びにひろば「にこにこクラブ」の今後の在り方を検討するために、同じような活動を行う札幌大谷大学の活動を見学および主催者へのインタビュー調査を行い、比較検討した。
7. にこにこママさんサークルの立ち上げ事業—<保育学生—子ども—母親>の交流を通じた育ち合い支援事業—	単	2019年4月 2021年3月まで	神戸市社会福祉協議会「生駒温子」児童福祉事業助成	保護者同士の繋がりを、保護者が主体となって作っていただけるように大学側がサポートを行い、子育て支援活動の支援への主体性や自立性を育むことを目指した実践活動である。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1. 1998年4月～現在	日本発達心理学会 会員
2. 2002年4月～現在	日本子ども家庭福祉学会
3. 2008年4月～2010年3月	日本発達心理学研究 編集委員
4. 2010年4月～現在	日本保育学会
5. 2012年4月～現在	日本臨床発達心理士会
6. 2012年4月～現在	日本心理学会